

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係貴重書の公開と電子情報化

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学学術リポジトリ事務局 公開日: 2007-12-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 赤嶺, 守, Akamine, Mamoru メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/2648

沖縄関係貴重書の公開と電子情報化

赤嶺 守

琉球王国は、明治12(1879)年に明治政府によって解体され、「琉球処分」という形で強制的に日本の国土に編入され、国家としての終焉をむかえるが、政府は「処分」の際に、首里城内に保管されていた多くの重要な王国史料を没収している。没収された史料は内務省の書庫に保管されていたが、大正12(1923)年の関東大震災の書庫の類焼でその殆どを焼失してしまっている。さらに、沖縄では第二次世界大戦中、激しい地上戦が展開され、首里城をはじめ王国時代の文化遺産が壊滅的な攻撃にさらされ、またその戦火の中で、多くの貴重な資料を失っている。戦後の沖縄関係資料の収集は、そうした震災や戦火をまぬがれた県内外における史料の発掘、そして国外における関連資料の調査・収集といった地道な作業を、丹念に間断なく繰り返すなかでおこなわれてきた。

昭和25(1950)年5月の開学以来、琉球大学附属図書館は沖縄関係資料の収集を館是の一つとしてその収集を網羅的におこない、そうした資料の保存・活用を図ってきた。現在、図書館は貴重なコレクションを多く収蔵しているが、その内、現在、貴重資料室に保管されている資料は、以下の「伊波普猷文庫」「島袋源七文庫」「仲原善忠文庫」「Bull文庫」「宮良殿内文庫」「Kerr(カー)文庫」「矢内原忠雄文庫」「原忠順文庫」「仲宗根政善言語資料」「宝玲文庫」「崎原貢文庫」「大城立裕資料」「琉球大学図書館関係」「文庫以外資料」の14のジャンルに分類されている。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| ① 「伊波普猷文庫」 106 件 | ② 「島袋源七文庫」 118 件 |
| ③ 「仲原善忠文庫」 246 件 | ④ 「Bull 文庫」 560 件 |
| ⑤ 「宮良殿内文庫」 267 件 | ⑥ 「Kerr (カー) 文庫」 4 件 |
| ⑦ 「矢内原忠雄文庫」 684 件 | ⑧ 「原忠順文庫」 74 件 |
| ⑨ 「仲宗根政善言語資料」 329 件 | ⑩ 「宝玲文庫」 61 件 |
| ⑪ 「崎原貢文庫」 21 件 | ⑫ 「大城立裕資料」 21 件 |
| ⑬ 「琉球大学図書館関係」 23 件 | ⑭ 「文庫以外資料」 148 件 |

計 2,662 件

1, 伊波普猷文庫 (106 件)

言語学・歴史学・民俗学などの学問領域を体系的に深化させた沖縄研究の創始者で、「沖縄学の父」として知られる伊波普猷収蔵の貴重な古文書や写本を多く含むコレクション。その中の『屋嘉比朝寄工工四』は沖縄県の重要文化財に指定されている。

2, 島袋源七文庫 (118 件)

『山原の土俗』の著書で知られる民俗学の島袋源七のコレクション。民俗学関係の資料、

特に山原地域の資料を中心に多くの古文書や古写本を含んでいる。その中の「浦添家本伊勢物語」は沖縄県の重要文化財に指定されている。

3, 仲原善忠文庫 (246 件)

『校本おもろさうし』『おもろさうし辞典・総索引』などを刊行し、伊波普猷と並んで、琉球古謡集である「おもろさうし」の研究や沖縄の歴史研究に大きな業績を残した仲原善忠のコレクション。歴史・民俗・文学など古文書・書籍など多岐にわたっている。

4, Bull (ブール) 文庫 (560 件)

米国のメソジスト監督教会から、明治 44 (1911) 年に沖縄へ派遣された宣教師 Earl.R. Bull のコレクション。幕末に琉球で宣教活動をしたベッテルハイムの研究で知られ、ベッテルハイム関連資料や大正期の沖縄を伝える貴重な写真などが含まれる。

5, 宮良殿内文庫 (267 件)

宮良家十代の当主宮良当智氏が、本学附属図書館に寄贈した琉球王国時代の代々八重山の頭職を勤めた宮良家収蔵文書のコレクション。王国時代の八重山の行政や生活文化などを窺い知る地方文書が中心で、それ以外に多くの漢籍等が含まれている。

6, Kerr (カー) 文庫 (4 件)

『琉球の歴史』の著者で知られる米国ペンシルベニア州生まれの歴史学者ジョージ・H・カー (George H. Kerr) 氏の蔵書の一部で、琉球大学開学後の昭和 30 (1955) 年から死去する直前の昭和 62 年 (8 月 28 日逝去) にわたって、継続的に寄贈された資料の中から沖縄関係資料だけを抜き出したコレクション。

7, 矢内原忠雄文庫 (684 件)

植民地研究で知られる矢内原忠雄 (元東京大学総長、1893-1961) のコレクション。植民地時代の台湾・朝鮮・満州・樺太・南洋群島の各統治機関が作成した刊行物、未刊行資料、内部資料、そして矢内原が作成した聞き取り調査資料、調査・研究ノート、統計、自筆原稿、メモ類等といった植民地を研究する上での貴重な資料を多く含んでいる。

8, 原忠順文庫 (74 件)

初代沖縄県令の鍋島直彬県政期の大書記官であった原忠順のコレクション。評定所記録や江戸上り関連文書、辞令書、原忠順自筆のメモ類の他、書簡が含まれており、琉球処分に関する貴重な文書類が多い。

9, 仲宗根政善言語資料 (329 件)

琉球方言の研究者であり、『沖縄今帰仁方言辞典』の著書で知られている仲宗根政善 (琉球大学名誉教授 1907~1995) の手書きの原稿、調査ノート、資料、メモ、日記など 9 万 2 千ページにおよぶコレクション。

10, 宝玲文庫 (61 件)

有名な収集家の Frank Hawley (フランク・ホーレー) のコレクション。ホーレーの収集した沖縄関係資料が昭和 38 (1963) 年にハワイ大学に購入されたのを契機に、相互複写交換業務を昭和 39 年 11 月に締結し、その内 61 点の資料を複写して収集したもの。

11, 崎原貢文庫 (21 件)

ハワイ大学の教授やハワイ国際大学学長職を勤めた崎原貢氏の蔵書のコレクション。平成 13 (2001) 年に寄贈された蔵書約 2400 冊の中から、琉球王国時代の古文書や稀覯本などを選別し抜き出したもの。

12, 大城立裕資料 (21 件)

昭和 59 (1984) 年以降、文芸作品の原稿の寄贈を「カクテル・パーティ」で知られる芥川賞作家の大城立裕氏に依頼し収集した原稿や原稿複写等のコレクション。

13, 琉球大学図書館関係 (23 件)

「志喜屋記念図書館建設基金ポスター」や昭和 38 (1963) 年 1 月に本学で記念講演を行い「学而不厭」を揮毫した湯川秀樹博士の記念撮影写真、貴重書目録など琉球大学附属図書館関係のコレクション。

14, 文庫以外資料 (148 件)

図書館設置後、図書購入経費や昭和 52 年から平成 13 年まで文部省の補助を受けた沖縄関係文献資料保存事業費で購入された貴重書のコレクション。

以上、計 2,662 件

こうした貴重書は、平成 13 (2001) 年 4 月 24 日付けで施行された以下の「琉球大学附属図書館貴重書認定基準」に基づいて認定されている。

琉球大学附属図書館貴重書認定基準

第1条 琉球大学附属図書館貴重書取扱要項第2条の規定に基づく貴重書の認定は、この基準の定めるところによる。

第2条 貴重書は、下記の和書、中国書、朝鮮本、洋書、沖縄関係資料、その他資料的価値があるものとする。

第3条 和書は、刊本および写本とする。

2 和書の刊本は、次の各号に掲げるものとする。

(1) 江戸期以前に印刷されたもの。

(2) 明治以後に印刷されたもののうち、伝本が少なく資料的価値があると認められ

るもの。

(3) 明治以後に印刷されたもののうち、名家の書入等により特に資料的価値があると認められたもの。

(4) 明治以後に印刷されたもののうち、資料的又は芸術的価値があると認められるもの。

3 和書の写本は、次の各号に掲げるものとする。

(1) 明治以前に書写されたもの。

(2) 大正以後に書写されたもののうち、伝本が少なく資料的価値があると認められるもの。

(3) 名家直筆の稿本及び書簡の類。

(4) 名家手写本のうち、特に資料的価値があると認められるもの。

(5) 名家の書入れ等により、特に資料的価値があると認められるもの。

(6) 図画等のうち、資料的価値があると認められるもの。

(7) 公私の記録若しくは公私の文書類の原本又はこれに準ずるもので、資料的価値があると認められるもの。

第4条 中国書は、次の各号に掲げるものとする。

(1) 清代以前に印刷されたもの。

(2) 中華民国以後に印刷されたもののうち、特に資料的価値があると認められるもの。

(3) 名家直筆の稿本及び書簡の類。

(4) 前号に掲げるものを除く写本のうち、資料的価値があると認められるもの。

(5) 図画等のうち、資料的又は芸術的価値があると認められるもの。

第5条 朝鮮本は、次の各号に掲げるものとする。

(1) 朝鮮王朝（李朝）以前に印刷されたもの。

(2) 朝鮮王朝（李朝）以後に印刷されたもののうち、特に資料的価値があると認められるもの。

(3) 名家直筆の稿本及び書簡の類。

(4) 前項に掲げるものを除く写本のうち、資料的価値が認められるもの。

(5) 図画等のうち、資料的又は芸術的価値があると認められるもの。

第6条 洋書は、次の各号に掲げるものとする。

(1) 1850年以前に印刷されたもの。

(2) 1850年以後に印刷されたもののうち、特に資料的価値があると認められるもの。

(3) 名家直筆の稿本及び書簡の類。

(4) 前号に掲げるものを除く写本のうち、資料的価値があると認められるもの。

(5) 図画等のうち、資料的価値があると認められるもの。

(6) 日本及び東洋関係図書のうち、19世紀以前に印刷又は書写されたもので、特に資料的価値があると認められるもの。

第7条 沖縄関係資料は、次の各号に掲げるものとする。

- (1) 明治以前に印刷及び筆写された資料。
- (2) 大正以後に印刷及び筆写されたもののうち、特に資料的価値があると認められるもの。
- (3) 名家直筆の稿本及び書簡の類。
- (4) 前項に掲げるものを除く写本のうち、資料的価値があると認められるもの。
- (5) 図画等のうち、資料的価値があると認められるもの。
- (6) 一括して取り扱うことにより資料的価値が生ずるもの。

第8条 その他、附属図書館長が特に芸術的又は資料的価値があると認め、かつ希少なものを。

貴重書の展示活動

附属図書館は所蔵する貴重な資料を広く一般にも公開するという趣旨で、以下の「資料展示会」を毎年おこなっている。一般市民への資料の公開、地域貢献・地域連携の一環として、毎年図書館内で行っていた貴重書展を、平成13年度、平成14年度には那覇市リウボウ7階リウボウホールで開催し、平成15年度からは県内公共図書館と連携して開催している。平成16年度から研究開発室に貴重書の公開（貴重書展の企画）班を設置し、学内の教員が室員になり、同時に展示委員として参加している。現在の委員は上里賢一（法文学部教授）、高良倉吉（〃）、赤嶺守（〃）、豊見山和行（教育学部教授）、前城淳子（法文学部講師）の5人で、展示会テーマの検討、展示史料の選定、解説文の執筆、展示会でのマスコミ対応等を担当している。

第1回資料展

仲宗根政善先生言語資料展

開催日 平成6年（1994）10月24日～11月4日

場 所 琉球大学附属図書館多目的ホール

主 催 琉球大学附属図書館展示委員会

展示資料 18点

第2回資料展

伊波普猷文庫貴重資料展

開催日 平成7年（1995）3月1日～3月10日

場 所 琉球大学附属図書館多目的ホール

主 催 琉球大学附属図書館展示委員会

展示資料 17点

第3回資料展

矢内原忠雄文庫南洋群島関係資料展

開催日 平成7年(1995)9月11日～9月22日

場 所 琉球大学附属図書館多目的ホール

主 催 琉球大学附属図書館展示委員会

展示資料 16点

第4回資料展

R・ブール文庫貴重資料展：資料収集の鬼

開催日 平成8年(1996)10月21日～10月30日

場 所 琉球大学附属図書館多目的ホール

主 催 琉球大学附属図書館展示委員会

第5回資料展

宮良殿内文庫貴重資料展：宮良殿内文庫の世界

開催日 平成9年(1997)11月11日～11月21日

場 所 琉球大学附属図書館多目的ホール

主 催 琉球大学附属図書館展示委員会

第6回資料展

仲原善忠文庫貴重資料展～沖縄の歴史とオモロ～

開催日 平成10年(1998)11月2日～11月13日

場 所 琉球大学附属図書館多目的ホール

主 催 琉球大学附属図書館展示委員会

展示資料 19点

<講演会>

講師：琉球大学法文学部教授 池宮正治氏

演題：「仲原善忠の沖縄研究」

日時：平成10年11月7日(土)午後2時より3時まで

会場：琉球大学附属図書館1階多目的ホール

第7回資料展

原忠順文庫貴重資料展～原忠順文書を通して見た置県直後の沖縄の社会状況～

開催日 平成11年(1999)11月2日～11月13日

場所 琉球大学附属図書館多目的ホール

主催 琉球大学附属図書館展示委員会

展示資料 16点

<講演会>

講師：琉球大学法文学部教授 金城正篤氏

演題：原忠順文書を通して見た置県直後の沖縄の社会状況

日時：平成11年11月13日(土)午後2時～3時

会場：多目的ホール

第8回資料展

島袋源七文庫貴重資料展～山原の民俗学者～

開催日 平成13年(2001)1月22日～2月2日

場所 琉球大学附属図書館多目的ホール

主催 琉球大学附属図書館展示委員会

展示資料 13点

<講演会>

講師：今帰仁村歴史文化センター館長 仲原弘哲

演題：「山原の民俗学者 島袋源七」

日時：平成13年1月27日(土)

会場：琉球大学附属図書館1階多目的ホール

第9回資料展(第1回学外貴重書展)

文献で見る沖縄の歴史と風土

開催日 平成14年(2002)2月2日～2月11日

場所 リウボウ・ホール(那覇：パレット久茂地)

主催 琉球大学附属図書館展示委員会

展示資料 86点

見学者数 2400名

第10回資料展(第2回学外貴重書展)

史料が語る琉球

開催日 平成15年(2003)2月4日～2月9日

場所 リウボウ・ホール(那覇：パレット久茂地)

主催 琉球大学附属図書館展示委員会

展示資料 76点

見学者数 2000名

第11回資料展（第3回学外貴重書展）

史料が語る琉球 in 名護

開催日 平成15年（2003）11月11日～11月16日

場 所 名護市立図書館

主 催 琉球大学附属図書館展示委員会

共 催 名護市立図書館

展示資料 76点（前回第10回と同様）

見学者数 1200名

第12回資料展（第4回学外貴重書展）

内と外からみた琉球

開催日 平成16年（2004）11月16日～11月21日（18日は休館）

場 所 西原町立図書館

主 催 琉球大学附属図書館展示委員会

共 催 西原町立図書館

見学者数 1100名

第13回資料展（第5回学外貴重書展）

琉球・沖縄の歴史と文化を語る多彩な史料

開催日 平成17年（2005）10月25日～10月30日

場 所 糸満市立中央図書館

主 催 琉球大学附属図書館

共 催 糸満市立中央図書館

見学者数 1000名

第14回資料展（第6回学外貴重書展）

琉球・沖縄の歴史と文化を探る

開催日 平成18年（2006）10月27日～11月2日

場 所 北谷町立図書館

主 催 琉球大学附属図書館

共 催 北谷町立図書館

見学者数 700名

第 15 回資料展（第 7 回学外貴重書展）

琉球・沖縄の歴史と文化への誘い

開催日 平成 19 年（2007）10 月 17 日～10 月 22 日

場 所 宜野湾市民図書館

主 催 琉球大学附属図書館

共 催 宜野湾市民図書館

見学者数 2300 名

画像データベースの構築と公開

琉球大学附属図書館は電子図書館機能の充実・強化を進めており、図書館経費の利用や日本学術振興会より科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を受け、以下の「宮良殿内文庫画像データベース」「伊波普猷文庫画像データベース」「仲宗根政善言語資料画像情報データベース」「仲原善忠文庫画像データベース」「矢内原忠雄文庫植民地関係資料画像データベース」の画像データベースを完成し、Web サイトで公開している。

宮良殿内文庫画像データベース

宮良殿内資料のほとんどは明和 8（1771）年のいわゆる明和の大津波以降の王国時代の八重山の行政に係わる地方文書で、諸座行政の基本指針を定めた「八重山島諸座御規模帳」、山林（杣山）の保護・育成・管理業務を詳細に規定した「八重山島杣山職務帳」、八重山の蔵元行政の指針文書である「八重山島蔵元公事帳」などがある。宮良殿内文庫の魅力は、この家が絶えず八重山行政の中心的な頭役を出す家であり、そうした八重山支配の行政そのものを知ることが出来る以外に、当地の暮らしぶりや芸能そして教養を窺うことができることにある。家庭祭祀の膳配りなどの記録である「祭之時膳符日記」、病名と薬方を書き記した「条一官伝書」、中国医書を翻案した渡嘉敷通起の妊娠・出産・育児などの心得・禁忌・病気と治療などを書いた「好生要伝」、謡曲の「諷」（うたい）本や組踊集・和歌集・琉歌集、本土近世歌謡を集めた「大和歌集」、「琴工工四」など多岐にわたっている。「太上感応篇大意」は琉球版の「太上感応篇」の和訳刊本で、当時の琉球の出版文化を知る手がかりとして重要な資料だと言われている。また「四体蘭亭帳」「四書大学章句」「四書中庸章句」「論語集注俚諺鈔」「孟子集注俚諺鈔」「重改中庸章句俚諺鈔」「補注孔子家語」などの漢籍版本が多いのも宮良殿内文庫の特徴である。本データベースでは 2 万ページに及ぶ膨大な古文書を画像化している。

安政 1（1854）年ペリーが開国を迫って日本へ遠征中、那覇に駐留していた水兵ボードが民家に押し入り婦人を暴行、住民に追われて海に転落溺死する事件が起こっている。ペリーは王府に事件の究明と犯人の処罰を強く迫り、王府は「かま渡慶次」なる架空の犯人を仕立て、八重山に終身流刑としている。「八重山江一世流刑」は架空の官職の「布政官」が八重山の頭職に発した文書で「琉球国中山府知府之印」という印章（確認されている唯一の印章）が捺されており、幕末期の琉球王府の外交の一端を知る貴重資料として知られている。

伊波普猷文庫画像データベース

伊波普猷文庫は106点を所蔵しているが、本データベースはその中の82点を画像データベース化している。その中には伊波自身が筆写した「久米島旧記」や田島利三郎が筆写した「おもろさうし」「語学材料」「配流余材」「受刃石」「随庵随録」「混効験集」「女官おさうし」「宮古島旧記」「琉球国由来記集」、真境名安興の筆写本である「玉城朝薫家譜抄」「くゑな集」「琉球集 琉球編纂資料」などが含まれる。田島利三郎は伊波の中学での恩師で、彼が県庁にあった『おもろさうし』を筆写した「田島本おもろさうし」は、王府おもろの歌唱の家である安仁屋主取家に伝来していたいわゆる安仁屋本との校異を示した学術的に価値の高いものとして評価されている。大正14(1925)年に柳田国男の周旋を受けて帝国学士院の補助を得て三冊本として刊行された『おもろさうし』の底本となった「仲吉本おもろさうし」も伊波普猷文庫に含まれ、本データベースではおもろ研究を進める上での貴重資料として知られているこの二種の「おもろさうし」の画像データベースも公開している。

その他に、本データベースには薩摩の琉球入り当時の琉球側の唯一の日記で現存する最古の写本の「喜安日記」や三司官の朱印が捺印された原本だといわれる「遺老説伝」、江戸上りの記録である「琉球国来聘記」など多くの貴重資料が収められている。沖縄県の重要文化財〔典籍〕に指定されている屋嘉比朝寄が編んだ琉球古典音楽の楽譜である「屋嘉比工工四」は原本である。

仲宗根政善言語資料画像情報データベース

仲宗根政善は、琉球列島各地の方言を調査研究した著名な学者で、その功績により沖縄県出身者として初めて日本学士院賞を受賞している。仲宗根政善が書き残した手書きの原稿、調査ノート、資料、メモ、日記など9万2千ページにおよぶ膨大な資料を、附属図書館では329冊に分類・製本している。本データベースは、9万2千ページの資料のうち2万ページを画像データとして取り込んでいる。仲宗根政善は『沖縄今帰仁方言辞典』『琉球方言の研究』の2冊の著書を刊行しているが、未発表原稿も数多く残している。本データベースには、そうした資料も多く含まれている。また郷里の今帰仁方言だけでなく、沖縄本島はもとより、宮古、八重山、奄美などの方言の調査記録があり、精密な国際音声記号によって記録されており、そのほとんどが手書きの言語資料である。

仲宗根政善は、『沖縄の悲劇—ひめゆりの塔をめぐる人々の手記』の編著者としてよく知られ、その資料のほとんどは「ひめゆり平和祈念資料館」に収められているが、一部が「仲宗根政善言語資料」にも含まれている。また、『おもろさうし』の研究にも関心をもち、「おもろさうしの研究I」～「おもろさうしの研究VI」や「おもろの助詞I」「おもろの動詞」などのおもろ語の文法的な研究の成果などがある。仲宗根政善言語資料画像情報データベースには、そうした直筆の方言研究に関する調査ノートやひめゆりの塔追憶記の一部など貴重な資料が数多く含まれている。

仲原善忠文庫画像データベース

本データベースは、本学が所蔵する463点の仲原善忠収蔵の沖縄関係貴重書の中から、特に貴重な136点を電子化している。仲原善忠は伊波普猷と並んで、琉球古謡集である「おもろさうし」の研究や琉球の歴史研究に大きな業績を残した沖縄学の研究者として知られている。本データベースの中では、「仲吉本おもろさうし」を仲原自身が筆写した「仲原本おもろさうし」が画像データベース化されている。「おもろさうし」の写本については、伊波普猷文庫画像データベースで「仲吉本おもろさうし」「田島本おもろさうし」がすでに画像化されており、沖縄県立博物館所蔵の尚家本を除く「おもろさうし」の写本3点がインターネット上で公開されたことになる。

また本データベースには、久米島の歴史・習俗・祭祀・古謡の研究の貴重資料として知られる「久米仲里旧記」をはじめ「久米具志川間切旧記」「久米島具志川間切規模帳」「久米島具志川間切公事帳」といった久米島関係資料が多く、そのほかに神女である君南風の職掌や性格を知る上で貴重な文献とされる「君南風由来并位階且公事」や江戸上りに関する「琉球人来聘」「琉球人帰国に付国役金の記録」等の貴重資料が含まれている。沖縄県の重要文化財〔典籍〕に指定されている浦添家本「伊勢物語」は、連歌師として有名な肖柏の「伊勢物語肖聞抄」の系統の善本とされている。

矢内原忠雄文庫植民地関係資料画像データベース

本データベースは、附属図書館が所蔵する矢内原忠雄文庫のうち、南洋群島、台湾、朝鮮、満州、樺太を軸とした植民地関係の原資料群を画像化し、これにインデックス等を付して検索を可能としたものである。矢内原忠雄は日本の植民地研究の第一人者で、本学へ寄贈された矢内原忠雄収蔵資料の特徴は、自筆原稿及びノート類といった矢内原の植民地研究の根幹となったオリジナル資料群が多く収められていることにある。その大半は、植民地時代の台湾、朝鮮、満州、南洋群島へ矢内原本人が訪れ自ら踏査収集したものであり、各統治機関が作成した刊行物、未刊行資料、内部資料、そして矢内原教授が作成した聞き取り調査資料、調査・研究ノート、統計、自筆原稿、メモ類等といった「生」の資料である。なかでも南洋群島に関わる資料は量的、質的にも突出し、戦前期在住日本人の約6割を占めていた沖縄からの南洋移民研究に欠くことのできない資料で、本学所蔵の矢内原忠雄文庫植民地関係資料は、国内外で現存する植民地関係資料として極めて貴重性、希少性の高いものであるといわれている。

データベースの構築・公開の意義と課題

附属図書館は、図書、雑誌その他の資料を収集・蓄積し、そうした情報を利用者に提供する役割を果たしてきたが、高度情報社会となり、情報通信ネットワークであるインターネットが急速に普及し、現在は図書館も電子情報の構築・公開をもとめられる「電子図書

館」の時代に入っている。附属図書館では、平成8年度に電子図書館機能検討委員会を設置し、電子図書館的機能を備えた図書館情報システムの構築計画を策定し、平成10(1998)年には電子図書館サービスを高度化するための研究及び開発を行う研究開発室を図書館内に設置して、以来それに関わる種々の計画実現のため努力している。本データベースの構築・公開も、その電子図書館構築に向けた事業のひとつとして位置づけられるものである。沖縄関係貴重書は、一般利用の面で制限を設けている資料であったことから、これまでほとんど研究者を中心に閲覧がなされてきたが、そうした貴重なコレクションを画像化して公開することによって、今では簡単な操作で、誰でもインターネットを介して本学内外から鮮明な画像で見ることができるようになっている。今回、画像データベースを構築して公開された資料の中には、本館が収蔵する沖縄関係貴重書の中の極めて貴重性、希少性の高い資料が数多く含まれている。こうした貴重資料データベースの公開は、関係する研究分野への貢献に大きく寄与するとともに、沖縄学の学術研究にとっても利用者へ幅広く学問的な情報を提供し、今後さらに新たな沖縄研究の深化が期待される。

本学は、NIIの最先端学術情報基盤(Cyber Science Infrastructure)の確立を図る諸事業の一環として行われている国立情報学研究所(NII)公募事業「平成18年度次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業」の採択を受け、機関リポジトリ(Institutional Repository)の構築を行っている。そうした機関リポジトリの構築で、大学で生み出されたさまざまな教育研究成果を収集し、蓄積して配信することが可能になる。附属図書館では、現在沖縄関係貴重書目録に基づき、資料一点ごとのアブストラクト(概要)の作成を行っている。機関リポジトリ(Institutional Repository)における沖縄研究の情報構築、そして現在進行している貴重書のアブストラクトを公開中の画像データベースにリンクさせることにより、利用者にさらに多くの沖縄研究そして貴重書に関する情報提供が可能となるであろう。

昭和25(1950)年の開学以来、大学とともに歩んできた図書館は、沖縄関係資料の収集を館是の一つとして沖縄に関する多くの資料を網羅的に収集し、資料の保存と活用を図ってきたことは先に述べた通りである。そして現在も図書館内に「沖縄研究資料収集専門委員会」を設置して継続して沖縄研究資料の収集は行われている。すでに公開済みの文庫類の個人収蔵画像データベース以外に、附属図書館は沖縄関係文献資料保存事業経費(昭和52年～平成13年)や図書館経費を利用して、その他に多くの貴重な古文書や古写本そして稀覯本といった資料を収集しており、その中には今日の沖縄学研究に欠かせない一級資料が少なくない。こうした資料の画像データベースの構築・公開も急がれる。これまで図書館が収集した文庫類の個人蔵書の中には、貴重資料として扱われてはいないが、貴重資料に準じる資料も少なくない。また中には沖縄関係貴重書としてそぐわない資料が貴重書扱いされているケースもある。そうした資料の貴重書認定基準に基づく見直しや選別整理も併せて行わなければならないだろう。今日の地域性を生かし特化した電子図書館への発展は、図書館職員の地道な努力によってもたらされたものであるが、そうした資料の認定見直しや資料選別及び資料情報の提供に関しては、教官の協力なしでは十分な成果をあげることにはできない。その他、最近では貴重書展、研究開発室の企画作業等図書館活動に教官の協力は欠かせなくなってきた。地域特性を生かした特化した電子図書館としての環境を整備していく上で、教員も積極的に基礎資料の集積、貴重資料の選別整理そして資料情報の提供に関わっていかなければならないだろう。

沖縄は国内外から多様性と強い独自性を持った地域として注目されている。毎年、本館収蔵貴重書の雑誌や書籍への転載許可の申請が多くなされ、平成14年5月1日～31日まで沖縄県公文書館で開催された復帰30周年記念特別展「資料に見る沖縄の歴史」では「原忠順宛鍋島直彬長文書簡」「八重山島江一世流刑手形」の出展要請に応じている。さらに平成19年7月16日（火）～8月26日（日）まで韓国の国立済州博物館において開催された海洋文物交流特別展Ⅱ「耽羅と琉球王国」には『朝鮮琉球全図』、『中山物産考』、『薩摩風土記』、『中山伝信録』、『琉球国志略』、『琉球人行列図錦絵』等を貸し出し、また台湾の故宮博物院でも「琉球王国展」が企画され、その協力要請を受けるなど、情報の発信は国内ばかりではなく世界に広がっている。電子図書館時代の到来で、貴重資料の公開に関して、琉球大学附属図書館に対して利用者の大きな期待が寄せられる一方、電子図書館としての利用者への情報提供・サービスなど、克服しなければならない問題そして課題も多い。文科省の沖縄関係文献資料保存事業経費の補助がうち切れ、その基礎資料の集積に関しては現在厳しい状況にあるが、今後も県内外や国外における沖縄関係資料の発掘・収集といった地道な作業を丹念に間断なく繰り返す中で、附属図書館はより総合的・体系的な沖縄学の研究を進める環境整備の構築を目指し、さらに質の高い基礎資料の集積そして資料の公開を図らなければならない。そして、難しい草書体の古文書に関しては、画像データベース情報のみの提供だけではなく、全文テキスト化によるデジタル情報の提供も今後検討していかなければならないであろう。

参考資料

- 1, 琉球大学附属図書館館報『びぶりお』通巻1号～147号
- 2, 琉球大学附属図書館貴重書展図録（平成14年度～19年度）
- 3, 赤嶺守「琉球王国史料の発掘・収集と研究の動向」（『アジア史料の情報資源化と国際的利用』第2回東亜細亜史料研究編纂機関国際学術会議、2004年12月）